

先日、ある衝撃的なニュースを耳にした。「スリランカが破産した」というものだ。スリランカはインド洋の島国で、決して大きくはないがインドや中国などの大国とのつながりも強い。そんな一国の財政が破綻してしまうというニュースの中に「債務不履行」という聞きなじみのない言葉があった。債務不履行とは、国債を返せなくなる、いわば国が借金を返せなくなる状態のことだ。調べてみると、日本は千兆円規模の国債を背負っているという。これは先進国の中でもとり分け高く、この返済のために更に国債を発行し、その収入を使っているそうだ。しかし、これで本当に国の財政は持ち応えられるのだろうか。ここで大切なのが税金だと僕は考える。

国の収入は基本的に税金だが、足りない分は国債を国民や企業に買ってもらうことによってまかなっている。しかし、国債は「借金」であるため、何年後かには利子をつけて返さなければならない。この利子の分を補うため、更に国債を発行するという悪循環が続き、国の借金はどんどん膨らみ続けているのが現状だ。つまり国債を発行しても、将来へ負担を先送りしているだけなのである。これでは公民で学んだ「持続可能な社会」は実現できない。であれば、税金の種類を増やしたり、国民から集める金額を上げたりして、税収を増やしてみてもはどうだろうか。

「ただでさえ消費税が十パーセントに上げられたのに、他の税金まで上げるのは無茶だ」という意見もあるかもしれない。しかし、日本より税金が高い国は意外に多い。消費税を例にすると、フランスやイギリスは二十パーセント、スウェーデンは二十五パーセント、ハンガリーは二十七パーセントもある。百円ショップでの買い物が百二十円を超えるという、僕達からすれば「何それ！」と叫びたくなるような税金の高さだ。しかし、これらの国は大抵が社会保障やサービス制度が充実した国である。例えばスウェーデンでは学費や子どもの医療費を免除したり、ハンガリーでは生活必需品の減税に加えて医療、学費共に無料である。こういった社会保障が充実した国は国民幸福度ランキングでも上位に位置している。つまり、税金の高さよりも社会保障の充実度が「国民の幸せ」にとって重要なのではないだろうか。この幸せを未来につなげていくのが「持続可能な社会」の実現に必要なことだと思う。

税金は社会保障やサービスのため使われ、僕達の元に「幸せ」として返ってくる。しかし、国債は借金返済や新たな国債のため使われ、破綻すれば返ってくるのは難しい。だから僕は、今も、未来も幸せな「持続可能な社会」の実現のために国債に頼るのではなく税収を少しでも増やすことが大切だと考えるわけだ。より過ごしやすく、「持続可能」な日本を実現するために、僕達一人一人が納税の義務をしっかりと果たしていきたい。